

活動名	団体名 Men's なかよし 地域 広島県広島市 代表者 事務局次長 尾崎 充彦 支援金額 20万円
活動概要	
<p>平成19年度に引き続き、父親を中心とした活動として、キャンプ、バーベキュー、クリスマス会などを計画して実施しました。また、平成19年から継続して農園を借していただいている広島市安佐北区の三谷集落で畑作りをすることで、作物を育てる苦労、充実感、食べ物の大切さ等親子ともども感じることができました。特に大人たちにとっては、今まで肌で感じることができなかった実際の地域の農業の現状に触れたことで、その重要性を再認識し、今年度、実施はできませんでしたが、今後の会の活動の中で地域の農作物の販売等についても協力したいといった案も出ています。</p> <p>また、本年は中国五県保育団体合同研究集会、第40回保育団体合同研究集会において当団体の活動を紹介させていただく場を頂き、当会の掲げている地域における家族の交流について紹介させていただきました。</p> <p>会が発足し、3年が経過しましたが、ここまで保育園等での継続活動の成果もあって地域でも少なからず認知されるようになりました。この会を通して地域の家族の輪をますます発展させていくとともに、地域の自然や社会を家族ぐるみで勉強し、子供の教育に寄与するために今後も活動を広げていきたいと考えています。</p> <p>◆実施時期：通年活動 Men's なかよし農園（広島市安佐北区三谷集落）農作業（サツマイモ、じゃがいも） 自然とのふれあいキャンプ（山口県大島郡周防大島町（キャンプ）） 保育団体合同研究会活動紹介（中国5県：岡山、全国：東京）</p> <p>◆参加人数：広島市安佐北区高陽なかよし保育園行事、クリスマス会、亀崎自治連合会発足30周年記念行事出店、地域バーベキュー等199名、自然とのふれあいキャンプ45名、ぶどう狩り27名、 Men's なかよし農園農作業118名、保育団体合同研究会参加（岡山・東京）6名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員 395名</p>	



《カブトムシの養殖》



《海水浴風景》



《恒例のイモ掘り》



《集合写真》

◆活動が関連する団体等、地域社会等に与えた影響

- ・当団体は地域の一保育所を足がかりとして活動しています。会員にならないまでも着実に今までの継続活動は、保育園の保護者(父親)にも伝わっており、会員等に対して園内、園外を問わず声をかけていただけたようになりました。(会の認知度が高まってきた。)また、会員が小学校等のPTA役員を引き受けるなど子供の教育現場や地域への父親参加の重要性という点についてはアピールできるようになったと考えています。
- ・保育団体合同研修集会に参加し活動内容を発表させていただき、他の保育園の先生方や保護者会の方からモデルケースとして非常に参考になったと暖かい言葉をいただきました。
さらに、個人では難しいようですが、会を通じて地域団体等の活動にも積極的に参加、協力できるようになりました。

◆苦労した点

今年度、当会で畠を借り自分たちの農園として活動してきました。その地域においては十分に交流できたと思いますが、一定の距離が災いしたのか地域でこの活動が取り上げられることはありませんでした。せっかくできた交流ですのでこれをぜひ地域に持ち帰る努力を今年度実施したいと考えています。(保育園の敷地を借り日曜朝に朝市を開催する等)

また、やはり地道な活動としては、保育園を通じて浸透していますが、人を集めてのイベントを実施していないせいか、地域におけるPRは十分とはいえないのが現状であると考えています。そういう意味でもぜひ今年度は、地域にアピールできるようなイベントを本会主催で実施したいと考えています。(現在、保育園の関連を基盤にして広島市安佐北区の保育園に呼びかけて、子供たちに外で大勢で遊ぶ楽しさを教えることのできるようなイベントを実施し、私たち父親が遊んだように、子供たちを公園に呼び戻せるようなイベントを検討中、昨年度実施できませんでした。)

このように会として、地域のためにいろいろ実施したい計画は多くあるのですが、やはり中心となる会員である父親は仕事においても多く求められる世代になっており、計画倒れとなっていることもあります。

子供たち、そして地域の方の「楽しかった。ありがとうございました。」という言葉を糧にますます会の活動を充実できればと考えています。

◆今後の課題・発展の方向性

会の方針として地域のためという言葉を多く使っていますが、地域のためはそこに住んでいる自分たちのためと考えています。社会の中ではインターネットの掲示板を利用していじめが流行するなど私達の世代からは想像もつかない状況の中でわが子を育てているのが現状です。わが子が大事であれば、自分の子供だけを一生懸命育てるのではなく地域の子供たちの教育に積極的に参加し、地域の子供たちにもの申せる人間関係を築くということを方針として掲げています。そのためにも地域における家族同士の交流の輪を一層広げるための活動を今後も実施していきたいと考えています。その中で、私たち大人も自分の知らない世界について他の会員の助けを借りて子供と一緒に体験できればと思っています。

◆活動を終えての感想・意見等

マツダ財団からの支援により予算的には、今までと比較して少ない負担で2007、2008年度活動することができました。また、マツダ財団の支援団体という肩書きにより、会としても今までにないアピールをすることができました。

今年度の反省点を踏まえて、マツダ財団の名に恥じぬよう今後とも活動したいと考えていますので今後ともご協力をよろしくお願ひいたします。

また、活動紹介等においてマツダ財団についてもご紹介させていただき、関係団体からはおそらく支援申請があったと思います。2007・2008年度の活動のご支援により、当会の運営等何とか軌道に乗せることができました。本当にご協力ありがとうございました。